

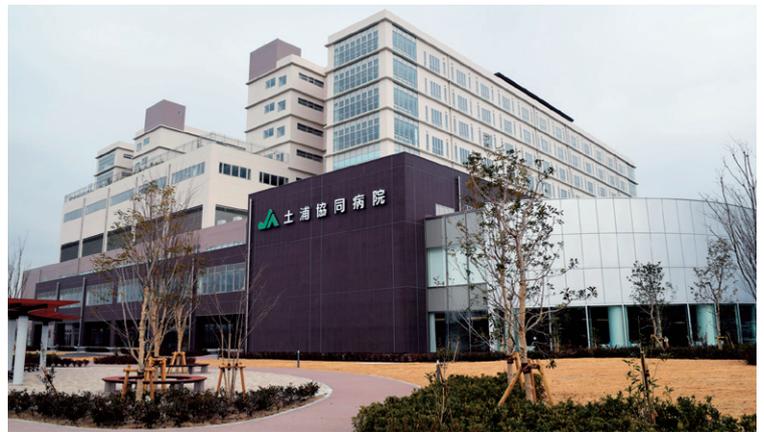
# 「メディカル・エコタウン」(医療環境経済都市)の創生

— 国道354号土浦バイパスの整備 —

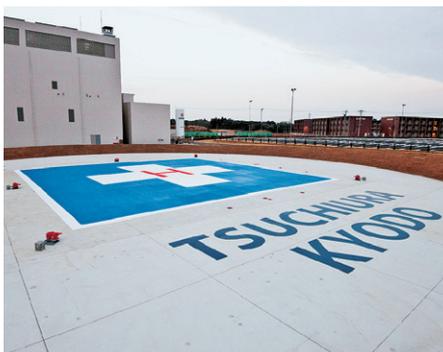
## 土浦協同病院(新病棟:地上10階)

土浦市おおつ野に移転・開院(平成28年3月)

地域の基幹病院として内科や循環器内科など31の診療科と救命救急センター、地域がんセンター、総合周産期母子医療センターを持ちます。医師数は約200人で、病床数は800床。敷地にヘリポートを設置。ドクターヘリや大型ヘリの発着が可能となり、広域から救急患者を受け入れるほか、災害時には災害医療の拠点にもなります。駐車場約2,000台。高速道路からは、常磐自動車道・土浦北インターチェンジから約9キロ。新病院までのアクセスは、国道354号土浦バイパスが平成23年3月に暫定2車線で開通し、ICからのアクセスは格段に向上しました。現在は4車線化するべく事業を実施しています。



2016年3月1日に開院した土浦協同病院



広域災害救急に対応するためヘリポートを設置



約2,000台収容できる駐車場を整備



平成23年に開通した354号土浦バイパス



▲移転した新土浦協同病院  
=土浦市おおつ野

旧病院は老朽化が進み駐車場も少ないなどの課題があり、移転を計画。改築計画時に国道354号土浦バイパスが暫定2車線で開通し、常磐道土浦北ICへアクセスしやすくなった点が移転要因のひとつです。当病院は救急搬送受入数と病床数とともに県内1位です。新病院では、救急救命センターをさらに充実させるため、広域からの救急患者の受け入れに取り組み体制を整えました。「災害拠点病院」としても一層の充実を図るため、エネルギー棟も併設しました。災害で電気、水道等が遮断されても、72時間のフル活動稼働できる能力を備えています。国道354号土浦バイパスの開通が無ければ、おおつ野への移転はなかったです。交通渋滞は救急医療では障害となりますから、同バイパスの早期4車線化を期待します。



土浦協同病院の出地隆治新病院事務局長、久保田一則事務部長、飯島幸広事務次長(左から)

アクセスの良さ活かし  
広域の救急医療に対応  
土浦協同病院